

各地から観音霊場会関係者が集まって開催された
第一回三十三観音ネットワーク会議



三月三日を「三十三観音の日」に

「三十三観音ネットワーク会議」発足

地方の霊場に活力

全国巡回サミット開催

全国各地の三十三観音霊場の情報交換、相互交流などを目的とする「三十三観音ネットワーク会議」が三日、広島市中区の八丁堀シャントを会場に開催された第一回ネットワーク会議をもって発足した。会議では三十三観音にちなんで三月三日を「三十三観音の日」として日本記念日協会等への登録申請を行なうことや、毎年、三月三日に各地の霊場を巡回しながら「三十三観音サミット」(仮称)を開催することなどを決めた。

ネットワークづくりが「平和祈願法要を厳修する」進められるきっかけとなったのは、昨年十月に韓国ソウル市の大韓仏教曹渓宗総本山曹溪寺で実施された韓の国三十三観音聖地開創一周年記念行事。日本の観音霊場関係者を迎えて日韓合同での

「準備が進められる」とし、準備が進められることになった。これを受けて、その交流会に参加した中国観音霊場第十四番札所真言宗御室派大聖院の吉田正裕住職が世話人となり、昨年十二月四日に中・四国、九州の有志霊場が広

島市に集まって準備会議を開催。さらに全国の霊場に案内状とアンケートを送って参加を呼び掛け、この日の「第一回三十三観音ネットワーク会議」を迎えた。

カ所観音霊場、七観音霊場(神奈川県)、伯耆三十三観音霊場、出雲観音霊場、さぬき三十三観音霊場、中国観音霊場、瀬戸内三十三所観音霊場、周防三十三観音霊場(山口県)、九州西国霊場、韓の国三十三観音聖地(韓国)―北からの順。個人参加も含む。なお、大坂三十三観音札所、新西国三十三箇所霊場からも参加の予定だが、葬儀など出席者の都合で欠席となった。このほか、旅行業者、印刷出版関係者等の出席もあった。

午後三時から行なわれた会議では、最初に名称を「三十三観音ネットワーク会議」と定め、「観音信仰普及のための国内外的ネットワークを立ち上げ、地方の霊場が元気になるため、情報交換、意見交換、相互交流を図る」(要旨)との目的を承認した。

また、三十三観音にちなみ三月三日を「三十三観音の日」として日本記念日協会への登録申請を行なうことや、来年の三月三日に「三十三観音サミット」(仮称)を開催していくことなどを決めた。

このほか、参加霊場の紹介やアンケートの結果の報告、協議などが行なわれ、ネットワークの輪を広げていくことを最優先とし、当面は会則、会費など細かいことは決まらずに、緩やかな参加しやすい組織として運営していくことになった。

次回の会議は、各霊場の総会等が終わる夏か秋ごろ関西方面で開き、来年三月三日の行事などについて協議する。

三十三観音霊場ネットワーク会議に関する問い合わせは事務局を担当する吉田大聖院住職(電話〇八二九(四四)〇一一)まで。